新品種・新技術の確立
支援　取組概要
（H30～R1 ）

『育苗ハウスの未利用時期を有効活用したイチゴ栽培技術　』

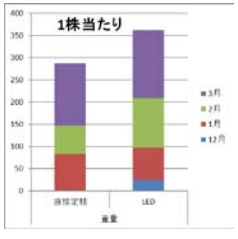
＝三重県＝

【全体概要】
育苗ハウス等の未利用時期（7月頃から3月頃）を有効活用して、種子イチゴ「よつぼし」を用いた栽培を行い、育苗作業の大幅な削減や直接定植など作業労力の軽減を行い、土地利用型担い手などを新たな栽培者とする産地振興策を実施。

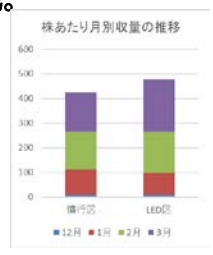
新品種・新技術等の概要

・JA水稲育苗ハウスや育苗ハウスの未利用時期を有効活用した、イチゴ栽培を実証。

・苗は採苗せず、購入苗を栽培槽へ直接定植して労力削減。
・栽培槽の架設台は、水稲苗箱の活用や簡易パイプによる仮設台を活用。
・11月からは訪花昆虫による受粉作業を開始。
・12月中下旬から収穫スタートし、3月末まで栽培。
・収量増に向けた植物LED照明実証



H30：A地区実証

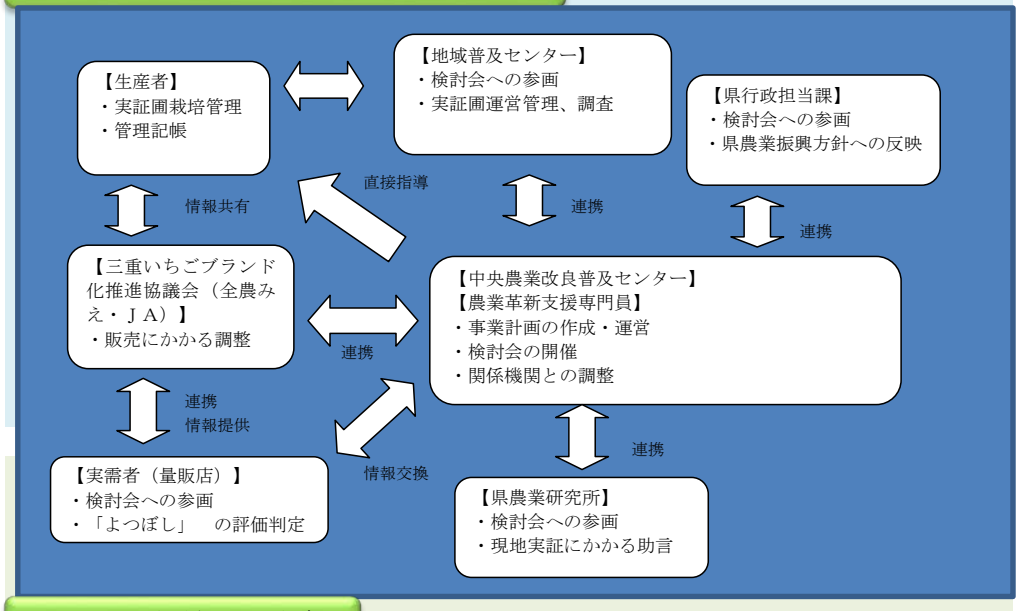


R1：B地区実証

主な取組内容

・育苗は親株からの採苗方式から、購入苗方式を採用し、育苗作業を大幅削減
・本圃直接定植方式を採用
・本圃窒素中断により花芽分化誘導
・ミツバチを補完する訪花昆虫（ヒロズキンバエ）の利用
・LED照明試験の実施
など

実施体制図



課題と今後の対応

育苗ハウスの未利用期間3月迄、有効活用したイチゴ栽培で、収量増に向けた植物ＬＥＤ照明利用による生育促進を図ったところ、３月末までの収量は概ね１割増であった。
一個当たり果実重量は、平均１６ｇ程度であり、需要に応じた大果生産の要望には課題を残した。